

第78回

新宿区景観まちづくり審議会

令和5年4月20日

新宿区都市計画部景観・まちづくり課

第78回新宿区景観まちづくり審議会

開催年月日・令和5年4月20日

出席した委員

野澤康、坂井文、中島直人、吉田慎悟、川手謙介、浅見美恵子、志村成昭、和田総一郎、有馬卓、安田裕治、大橋秀子、阿部光伸、野澤義男

欠席した委員

後藤春彦、篠沢健太、伊藤香織、大崎秀夫

議事日程

1. 報告

[報告1] 早稲田大学西早稲田キャンパス52・53・54号館建替計画について

2. その他

議事

午前10時00分開会

○野澤（康）副会長 皆さん、おはようございます。ただいまから第78回新宿区景観まちづくり審議会を開会いたします。

本日の出席状況及び配付資料等について、まず事務局から説明をお願いいたします。

○事務局（景観・まちづくり課長） 事務局でございます。事務局を務めます景観まちづくり課長の蓮見です。本日は、どうぞよろしくをお願いいたします。

本日の委員の出席状況でございますけれども、**後藤委員、篠沢委員、伊藤委員、大崎委員**より御欠席される旨の御連絡を頂いております。また、**川手委員**につきましては、遅れる旨の連絡を頂いているところでございます。

なお、委員の過半数が出席しておりますので、新宿区景観まちづくり条例施行規則第39条第2項により、審議会は成立しております。

また、本日は、新宿区景観まちづくり相談員の**神谷相談員**に事務局として御出席を頂いております。

次に、本日の進行と配付資料等について御説明をいたします。

本日の進行につきましては、机の上に配付していただいております次第のとおりでございます。報告案件1件という状況でございます。

次に、資料について御確認をお願いします。

机上配付資料としまして、次第でございます。裏面に委員名簿が記載されてございます。

また、新宿区景観まちづくり条例と施行規則、新宿区景観まちづくり計画、景観形成ガイドライン、また参考資料といたしまして座席表を配付させていただいております。

景観まちづくり計画につきましては、令和2年度より御議論いただきまして見直しを進めてまいりました。本計画につきましては、本日、机の上に改定版の新しい冊子を配付させていただいております。改定に当たりましては、委員の皆様にも多大なる御協力を頂きましたこと、改めて御礼を申し上げます。

また、配付させていただいております冊子につきましては、会議終了後、事務局で保管いたしますので、会議終了後、机の上にそのままにさせていただいて結構でございます。

次に、事前に配付しております資料としまして、報告1の案件の資料、早稲田大学西早稲田キャンパス52・53・54号館建替計画について、1点でございます。

資料につきましては以上となります。皆様、お手元でございますでしょうか。よろしいでしょうか。また不足等ございましたら、事務局までお申出ください。

続きまして、卓上マイクの使い方について御説明をさせていただきます。台座の中央のボタンを押していただきますと、マイクの先端が赤く光ります。御発言が終わりましたら、また同じ中央のボタンを押していただきますよう、御協力をよろしくお願いいたします。

また、本日の審議会は公開となっております。傍聴の方は発言できませんので、御了承願います。

事務局からの説明は以上でございます。

本日は、早稲田大学の案件の報告となっておりますので、**後藤委員**は欠席しております。進行につきましては、**野澤副会長**よろしく願いいたします。

○野澤（康）副会長 そういう事情で私がここに座っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

では、本日は報告案件1件ということで、早速始めたいと思います。

1. 報告

[報告1] 早稲田大学西早稲田キャンパス52・53・54号館建替計画について

○野澤（康）副会長 報告1、早稲田大学西早稲田キャンパス52・53・54号館建替計画についてです。

まずは、事務局から説明をお願いいたします。

○事務局（景観・まちづくり課長） 事務局でございます。

それでは、報告1、早稲田大学西早稲田キャンパス52・53・54号館建替計画について御説明をいたします。

本日の計画につきましては、審議会の報告基準である大規模建築物等に該当するため、本日の審議会に報告を行うものでございます。

詳細につきましては、事業者から説明をいたします。

事業者の方は自己紹介の後、説明をよろしくをお願いいたします。

○早稲田大学（北野） 本日は、お忙しい中ありがとうございます。私、早稲田大学の北野と申します。よろしくをお願いいたします。

○日建設計（團野） 本日はお集まりいただき、ありがとうございます。私、設計を担当しております日建設計の團野と申します。よろしくをお願いいたします。

○日建設計（小林） 同じく日建設計の小林と申します。よろしくをお願いいたします。

○日建設計（團野） それでは、お配りしております資料の御説明をさせていただきます。

表紙をめくっていただきまして1枚目、敷地概要でございます。早稲田大学の西早稲田キャンパス理工学部のキャンパスに建ちます、もともとありました52号館、53号館、54号館、一部残す計画となっておりますが、そちらの建て替え計画というところで御説明させていただきます。

次をめくっていただいて、2ページを見ていただければと思います。

計画概要でございます。敷地面積4万4,353.82平方メートルという敷地に、建築面積4,000平方メートル、延べ床面積3万2,000平方メートル、高さ40メートルです。こちらの敷地、絶対高さ制限40メートルかかっており、こちらの中で高さ40メートルというところで計画させていただいております。

階数は地下2階・地上9階、用途は学校ということで計画しております。

こちらの計画は、建築基準法第56条の2第1項のただし書による許可、日影規制に関する許可を取得して進めているものになってございます。

スケジュールとしては、確認申請を今進めておりまして、5月上旬に取得、着工を6月上旬、竣工は2029年3月下旬を予定しているものでございます。

資料の右側に平面図が地下2階から9階まで並べてございますが、地下1階から3階までにグレーハッチがかかっている部分がございますが、こちらは既存の52号館、こちらの建物を残して使いながら、53号館、54号館、そして52号館の上に新築建物を造っていくという計画でございます。

地下2階には機械室関連、地下1階から3階までは学生さんの使われる教室、4階には学生さんが憩う場所といたしますか、カフェテリアであったり、自由に勉強、思索が行われる場としてのラーニングcommonsという場、そして5階から9階までは研究室が位置するという計画になってございます。

めくっていただきまして、3ページを見ていただければと思います。こちらは、計画敷地の部分における近況の周辺状況調査でございます。

左上の図、オレンジで計画部分を示しております。こちらの計画は52号館、53号館、54号館ということで本日、議題として上げさせていただいておりますが、59号館という建物、西側のほうにも計画が引き続きございまして、そちらの部分も含めて1度周辺状況調査というものを行っているものになってございます。こちらはかなり細かくなっていますので、割愛させていただきます。

1つめくっていただきまして、4ページ、新宿区都市マスタープランの上位計画をまとめているページでございます。こちらは、御出席の皆様から私から説明するというのも釈迦に説法のような内容でございますが、それとどのように準拠しているかということについて、こちらの考えについて御説明させていただければと思います。

左上、新宿区都市マスタープラン、大久保地区ということで低中層住宅地区になってございます。

地域の将来像は、つつじのさと大久保、人にやさしい多文化共生のまちということになってございます。

土地利用・市街地整備というところでございますが、大久保三丁目西地区等の新しい魅力を周辺につなげるということを考えております。こちらは、周辺道路脇の整備とともに御説明させていただければと思います。

道路・交通は、安全で魅力ある歩行者空間の整備を促進します。こちらも同様に、後ほどランドスケープのページのほうで御説明を差し上げます。

安全・安心まちづくりは、避難場所の安全性の向上を図ります。こちらは今回、大学内の共有スペース、中庭スペースを特にいじめる計画ではございませんので、これまでと変わらず、避難場所としての機能を果たしていくということになってございます。

みどり・公園は、大規模公園を核としたみどりの充実を図りますというところでございますが、こちら後ほど御説明しますが、4階の部分に広くみどりの帯をつくっていくという計画にしておりまして、平面的な部分というのは建物として貢献できる部分は限られておりますが、遠景で見たときに、そういったみどりが遠くからも見られるような計画ということで、みどりの充実を図っていきたいと考えております。

都市アメニティは、まちの歴史的・文化的資源を生かしたまちづくりを推進しますというところでございますが、こちらは中に建っております52号館という教室、こちらは早稲田の安東勝男先生、構造は松井源吾先生が設計され、建築学会賞も受賞している建物がございます。こちらのほうを早稲田大学の想いとして残して、それをレガシーとして未来に向かっていく建物というふうにしておりまして、歴史的・文化的資源を生かしたまちづくりを推進するというところに、かなっているというふうに考えております。

1つめくっていただきまして、5ページでございます。景観形成方針について御説明させていただきます。

こちら、上には西早稲田キャンパスの配置図を示しております。この図の右下に52号館、53号館、54号館と示しておりますが、その部分に新築する計画となっております。

そして、キャンパスはもちろん、もっとみどりにあふれておりますが、今回計画で改修等を行っていくみどりという部分を緑色に塗らせていただいている図になってございます。

グレーハッチをかけている既存52号館という建物がございますが、先ほど御説明しましたように、こちらを完全に保存した計画としております。

形態・意匠についても言及しておりますが、ここだと文字だけになってしまうので、後ほど立面図等で御説明させていただければと思います。左下に①、②と書いたモンタージュがございますが、これは西早稲田キャンパスが面しております明治通りからの見え方を示しているものでございます。明治通り側には既存キャンパスの55号館、65号館が建っておりますが、こちらに赤点線で囲っておりますのが、今回議題として上げさせていただいております52・53・54号館の建て替えが完成した場合の建物アウトラインとなっております。

コズミックセンターの大きい足元からは少しだけのぞいてくる形になりますが、基本、ほぼ見えないというふうに考えまして、景観形成としては明治通り側ではなくコズミック通り、南

側の通りからのところで考えるということでベースとして考えてございます。

1つめくっていただきまして、6ページをご覧になっていただければと思います。上が現況、下が計画を示しております。

現況では52号館、53号館、54号館という建物がございまして、その周囲を地下1階の建物、教室に光を入れるためにドライエリアがぐるっと囲っているという形になってございます。

計画では一番左の52号館は完全に残した上で、その両サイドにコア、高層部へのアクセスのためのエレベーターと階段を収めたシャフトを入れまして、53・54号館はほぼ一体の建物として計画しているものでございます。

塗り分けとしてピンクが教室、黄色に近い色が共用部を示しておりますが、54号館の右下、少し文字であったり矢印を書いている部分でございしますが、この辺りに教室ではなく、「吹抜」というふうに書かせていただいている部分でございしますが、こちらは地下1階の地下鉄からアクセスしてくる広場が地下にあるんですが、そちらに対して光を入れるような場所になってございます。

こういったところに、教室ではなく吹き抜けを設けてくることで、コズミック通り側に共用部を設けるというような形とし、教室は通り側に向かって授業を受けても集中できないので、どうしても背中を向けて黒板が通り側を向くというような形の配置になるんですが、それだけではなくて、学生さんの普段の営みといいますか、共用部的な営みというのもコズミック通り側に出てくるというようなことを意図して中のプランニングも行っているものでございます。

1つめくっていただきまして、7ページでございします。南立面図、西立面図、東立面図を示しております。

上の南立面図、横に長い図面、こちらがコズミック通り側の立面を示しているものでございます。

図のちょうど中央真ん中下に既存52号館とございしますが、こちらを残した計画としております。そして、その両サイドにコアが来て、上部に52号館が乗ってくるという計画になっております。

そして、立面中央、ちょうど4階レベルに、「ワイヤー式緑化」と書いておりますが、ここにワイヤー式緑化をはわせた半屋外空間、内部空間、主に半屋外空間になるスペースが連続するというふうになってございます。

まずは、このワイヤー式緑化を用いた半屋外空間を4階に設けることで、壁面の圧迫感というところでは、まずここで大きな分節を行うということを考えております。

そして、52号館両サイドのコア、こちらも研究室ボリューム、また既存52号館とはもっと、スリットが切られる形になっておりますので、こちらも縦のスリットとしてそれを切ってくる。

そして、53・54号館と真ん中のコアの間も、53・54号館と新52号館は構造的には一体でございませんので、エキスパンションもしくは吹き抜けで切るという形で、こちらも縦の分節を行っております。

また、図面一番右、東側のコアですが、こちらも縦にスリットを、建物部分と切ることで、こちらも色を変えとか、素材を変えといったようなことではなく、明らかに面が落ちて、場合によっては外部になって、明確なスリットが入るという構成とすることで、圧迫感のない立面の構成を考えております。

また、「仕上げ凡例」を右下に記載させていただいておりますが、既存52号館がある早稲田大学西早稲田キャンパスは、コンクリート打放し、そしてアルミもしくはスチールのサッシ枠を中心とした質実剛健な理工学生の研究の場、学習の場となっています。そちらを引き継いで、基本、コンクリートで造れる部分はコンクリート、ワイヤー式緑化より上部に関しては鉄骨もしくはスチールのフレームが露出し、スチールのフレームの背面にはスチールパネルがくるという形で仕上げを考えております。

ただ、それだけでは少し殺風景だというふうに考えまして、ワイヤー式緑化で横に緑を入れるということで、潤いをもたらすということを計画しております。

8ページを見ていただければと思います。こちらは中庭側のエレベーションになってございますが、こちらは先ほど申し上げた話と同じ、中庭側も、通り側も同じ表情をしております。一部違うのは、中庭側には学生さんがアプローチできる外部の階段が付いておりまして、ワイヤー式緑化の部分にはカフェテリアがあるんですが、学生の上下の行き来がより活発に見えてきて、大学の中に活気をもたらすということを考えております。

1つめくっていただければと思います。こちらは、明治通りからコズミックセンター通りに1つ入ってきたところから見上げたパースでございます。奥に既存52号館が見えて、53・54号館の足元、そして上部に連続していくワイヤー式緑化を備えたキャンパスでのパブリックスペース、そしてその上部に鉄骨フレームで覆われた研究室フロアが見えてくるという形になってございます。

1つめくっていただきまして、右下に④と記載のあるページでございます。こちらも既存52号館の周囲、構造的に縁を切っているということで大きくスリットが見えているかと思いますが、既存52号館の横に、両サイドにコアが建ち、それを緑化のボリュームが貫入しているとい

う計画が見てとれるかと思えます。

計画の中で、コズミックセンター通り側、そして周囲への圧迫感をより軽減ということで、上部の工作物をぎりぎりまで下げるということをやっております、圧迫感の軽減に対する対処を取っているというところがございます。

そして足元には歩道沿いに、みどりの歩道、緑化空間をとるための早稲田大学敷地内での工夫について書かれております。こちらは、後ほどランドスケープのページで御説明させていただきます。

1つめくっていただきまして11ページ、外観全体イメージの南西より、南東よりでございます。

では、続きをよろしく申し上げます。

○日建設計（小林） 続きまして、みどりのお話です。私、小林から御説明させていただきます。

12ページの左上にあるように、周辺のみどり、戸山公園ですとかコズミック通りですとか、そういったつながりを意識しながら、主に南側のコズミック通りの御説明になりますけれども、こうした樹種構成で更新していきます。どうしても南側の今の既存の樹木はイチョウがずらりと並んでいて、桜が時折入ってくる比較的単調な樹種構成になっておりまして、林床部、地面の部分に至っては、ほぼ裸地といったような状況になっております。それに対して今回は、地域の在来種を中心として生物多様性を考慮しながらも、歴史的に大久保地区でゆかりのあるツツジなどの園芸種なども取り入れていくといった計画になっております。

めくっていただきまして、その樹種がどういった空間に植えられるかというところの御説明になります。

資料上の段が平面図になっておりますけれども、こういった形で道路境界線から植栽帯がほぼ占めるような形ですけれども、1メートル植栽帯をセットバックさせまして、歩行空間を提供します。現状、その右側の真ん中に「現況歩道」という写真がありますが、敷地境界ぎりぎりに早稲田大学の壁が建っております、これは車止めのボラードが立っておりますけれども、それより内側の有効幅員を示していますが、歩道が約1.2メートルというところになっております。

この現状に対して今回の計画では、先ほどのセットバックした幅員を含めて、1.6メートルから2.4メートルの歩行空間を提供することができます。

それと、先ほど申し上げました多様な植栽によって生物多様性への配慮をするとともに、今

回、壁がなくなることで見えてくるみどりの法面を多様な植栽、高木だけではなくて中木、それから足元の低木・地被などの彩りを皆さんに見ていただけるような構成になっております。

ところどころにそのセットバックラインが少しずつ雁行しながら、引っ込んだところにはベンチを置くなどしてお休みいただけるところなんかも用意し、戸山公園に向けた長い歩道に滞留空間などをつくるという計画になっております。

14ページを見ていただければと思います。先ほど建築計画のほうでありました4階のワイヤー緑化の御説明になります。

ワイヤーを上下に張りまして、そこにツル植物を絡ませていくというものです。樹種構成としては、地上より高いところにありますので、継続的な維持管理ができるよう、強健な常緑種をメインとしまして、そこに彩りも見えてくるような種類を混ぜていくという計画になっております。

最後のページにめくっていただきまして、中庭の様子を御紹介するという資料ですけれども、同じように、一部地下工事などもあって掘削はしますけれども、みどりの中庭として右の写真にあるような状況にほぼ復旧していくというものになっております。

以上になります。

○野澤（康）副会長 御説明は以上でよろしいですか。

○日建設計（團野） はい。

○野澤（康）副会長 御説明を頂きまして、ありがとうございました。

次に、景観事前協議の状況について神谷相談員から御説明をお願いいたします。

○神谷相談員 事前協議の状況ですけれども、3回ほど行いまして、全体として大きな問題はありませんでした。良い計画という評価です。

早稲田の西早稲田キャンパスですが、ここは意匠的には基本的に近代建築のある種の打放しの建物中心ということで、当時としては先駆的なデザインだったわけですが、潤いに乏しいという面もあって、今回これをどう今の時代に合わせて継承して活用していくかというようなことが課題だったと思われるわけですが、それに対して十分答えが出ていたと思います。

コズミック通りの長い、長大な壁面になりがちなところ、意匠的にはボリューム分割、これが課題になるんですが、これも上下方向、横方向やられていますし、時代的な継承と発展という意味でも、緑化をうまく意匠に組み込んでいるということで対処されていたと思います。

設備的にも修景を建築意匠の中できちんと処理されているということが評価はできました。

みどりについて、これもアイレベルでのコズミック通りの緑量を増やす、その質を高めてい

くということで、いろいろ話をしましたけれども、基本的に景観協議としては在来を中心とした多様性の高い計画かということで常に見ているわけですが、今回はそれに即した内容で検討されていたということです。

ワイヤー緑化の部分は技術的にやや難しい部分もありますので、どのような方法で基盤に行っても行うのか、メンテナンスをどうするのかというあたりについても確認いたしました。

総合的によく検討されている計画ということでした。

以上です。

○野澤（康）副会長 ありがとうございます。

続きまして、本日御欠席の委員から事前に意見を頂いているということですので、事務局から紹介をお願いいたします。

○事務局（景観・まちづくり課主査） 事務局でございます。

本日欠席された委員からの主な意見について御紹介いたします。

伊藤委員から、4階壁面緑化の管理方法に関しては、建物管理者と協議の上、壁面緑化が適切に管理できるように計画してほしいという意見がございました。

簡単ではございますが、意見は以上でございます。

○野澤（康）副会長 ありがとうございます。壁面緑化というのはワイヤー緑化という御説明があったものですね。ありがとうございます。

では、ただいまの報告1につきまして、皆さんから御意見、御質問を頂きたいと思えます。よろしく願いいたします。

安田委員どうぞ。

○安田委員 区民委員の**安田**です。よろしく申し上げます。御解説ありがとうございました。

建物に関しての簡易な質問なんですけれども、1つは、先ほど御説明がありましたように、52号館に関しては以前から優秀な建物が現在あって、それも残していくということなんです、これは隣の53・54号館が一体化されていますけれども、52号館でコズミック側からの景観ですごく印象的なのがファサードにある各窓の上の庇のデザインなんです。もう一つは、南側のファサードから分かりますように、表に出ている水平方向の梁が真ん中が膨らんでいて端っこが細くなっている、斜め梁みたいなイメージなんです。

ここで質問なんですけれども、この建物、これだけ残すことによって、隣の53・54号館のほうにある程度統合性というか、少しでもいいんですけれども、似たようなエッセンスを取り込むことはできないんでしょうか。

具体的に言いますと、コズミック通り側から見たときに53号館、54号館の真ん中のところがトイレになっています。そのトイレのところだけは、ちょっと言葉はきついんですけども、マッシブな単なる壁というふうにはしか見えないんです。分かりやすい図は7ページで53・54号館の真ん中がトイレ部になっています。この壁、何かあまりぱっとしないんで、この部分をちょっとエッセンスだけ、52号館の斜め梁みたいな意匠、本当の構造ではなくても、できなかつたのかなというのが少し気になりました。今のが1つの質問です。

続けますと、52号館の底のことなんですけれども、例えば10ページのモンタージュ写真ですが、これは現状の底とは変えていますか。

○日建設計（團野） 入れているモデルは特段変えておりません。

○安田委員 描いていないということでしょうか。

○日建設計（團野） どちらの部分をおっしゃられていますか。

○安田委員 10ページの52号館のことです。これは、現状の建物の外にあるルーバー、底を変えていますか。

○日建設計（團野） こちらは変えておりません。

○安田委員 変えていない。縦だけですか。

○日建設計（團野） 縦と水平、両方が入っています。

○安田委員 ああ、そうか、下から見えていますね。

○日建設計（團野） はい。

○安田委員 私はここを歩くんですが、外から見ると、何か水平の、テントらしきルーバーみたいなものがすごく目立つんです。これに近いものは底だと思うんですが、南側ですから、53・54号館のほうには取り込もうとはされなかった理由は何でしょうか。

○日建設計（團野） まずは、底についてお答えさせていただきます。

基本、今回教室部分は、特に52号館の設計思想、53・54号館を取り壊して造るということから、そちらの思想を取り込むということに苦心してまいりました。こちらの10ページのパースでも53・54号館の窓のところの一部見えているかと思いますが、外側にも、内、建物の中にも水平の底を引き込んでおります。

○安田委員 ごめんなさい、見えづらかったので。了解しました。

○日建設計（團野） 意匠的に継承するという形態を取ることよりは、学生さんの学習空間としてふさわしい光環境、これをどのようにつくっていくかということについて、52号館設計時よりも今進化しているというところございますので、光シミュレーションを駆使しま

して、垂直の底はなしでも水平の底を内側に引き込むことで、いい光環境がつかれるということを確認しまして、この底の計画として進めております。

○**安田委員** はい、分かりました。

○**野澤（康）副会長** 前半の御質問にもご回答ください。

○**日建設計（團野）** 続いて、前半で頂いた質問でございます。

6ページのほうをご覧になっていただくと、既存の52号館は東西に動線が貫いて、南北にも動線と、またトイレが突き当たりにあるという形になってございます。今回これをどのように引き継いでいくかというところで、53・54号館そっくりな形を建てるみたいなことも中では考えたんですが、結果的に最終出来上がっております形としては、53・54号館も52号館よりも太い共通動線の中に引き込む。そして、外部なので黄色に塗っておりませんが、屋外の大学中庭のほうに門戸を開いております。そして、この十字状になるところにちょうどトイレが来るという形で、図式上のプランとしては同じ形を遵守しながら、53・54号館を合体した形で52号館を引き継いでいくということを計画しております。

一方で、その形で横に延ばせばトイレの部分が広がってきて、その形がコズミックセンター側に出てくるというところで少しマッシブな面が多いんじゃないかというところの御指摘だったかと理解しますが、こちらのトイレに取り込む窓であったり、そこから排気するガラリであったりというところを、少しアクセント的には入れておりますが、おっしゃるところは御理解できなくはないなというふうにも思っております、コストも限られている計画でありますので、何か付けていくとか、そういったことというのは現状はなかなか難しいかなというふうには思っておりますが、コンクリートの色調を少し変えるとか、限られた中でできる工夫というのを何か考えていきたいというふうに考えております。

○**安田委員** 簡単な工夫でもいいんですけども、景観上、歩いていると少し圧迫感が取れるようなものもあるといいですねというふうな希望でございました。御説明ありがとうございます。

○**野澤（康）副会長** ありがとうございます。今のトイレ部分のお話は、コストと言われると何とも反論ができなくなってしまうんですけども、そのあたり早稲田大学にも頑張っていて、もう少し工夫できるといいかなというのは、確かに**安田委員**のおっしゃるとおりかなと思います。

ほかにかがでしょうか。

有馬委員 どうぞ。

○有馬委員 私はこの近くにもう何十年と住んでいまして、散歩コースなどで非常に興味深く見させていただいているんですが、全体的な話で早稲田大学として校舎の中長期的な建て替え計画だとかマスタープラン、こういう方針で、このキャンパスはこうしていこうとか、何かそういうものというのは多分あるんじゃないかと思うんですが、どうなんですか。

○野澤（康）副会長 いかがでしょうか。

○早稲田大学（北野） 大学の北野より回答させていただきます。

今おっしゃっていただいたとおりでございます、早稲田大学キャンパス、この西早稲田キャンパス近傍に我々が「本部キャンパス」と呼んでいる早稲田キャンパス、それから戸山キャンパスと複数のキャンパスを持ってございます。各キャンパスは歴史が違います。先ほど申し上げた本部キャンパスというのは1892年からですので、今で言うところと130年以上のキャンパスです。この西早稲田キャンパスは1960年代ですので、60年ちょっとぐらいのキャンパスですので、それぞれの場所での歴史性といったものが異なっておりますので、それぞれのキャンパスでキャンパス整備指針というものを定めてございます。

そのキャンパス整備指針というものは、本学は建築学科を持っておりますので、今日欠席している後藤もそのキャンパス整備指針の中では参画し、意匠は建築学科の古谷、それから環境設備の田辺、それから構造は早部といったメンバーがそのキャンパス整備指針の作成に携わってございます。

その整備指針につきましては、今早稲田大学では外部に公開という形は取っておりませんので、あくまでも内部資料という状態で保有しているというような状態でございます。

○野澤（康）副会長 有馬委員、どうでしょうか。

○有馬委員 差し支えない範囲である程度オープンにすることがどうなのかな。

というのは、キャンパスのところで計画を持っていろいろやっても、その周辺のところがそこと無計画にどんどん開発されていったりということもあるので。

恐らく大学ということなので、補助金だとかいろいろな関係でなかなかオープンにしにくいところもあるとは思いますが、キャンパスごとにこういう方針、もちろん1年ずれるのは全然構わないんですが、何かこういう中長期的にこういうことを考えていますよということをオープンにすることで、周りの再開発だとか建て替えだとかにある程度いい影響を及ぼすんじゃないかなと個人的には思うので、御検討いただけたらなという感じがしなくもない。

それともう一つ、細かい話ですけれども、キャンパスごとに設計事務所というのは大体決まっているものなんですか。それとも、ビルごとに設計事務所は何かコンペだとか、そういうこ

とでやるんですか。それはどちらですか。

○早稲田大学（北野） まず1個目のお話でございまして、現在、キャンパスの順番にですけれども、実はキャンパス整備指針・グランドデザインというものを新たに見直しをかけてございます。その整備・グランドデザインにつきましては、今「マスタープラン」と我々は呼んでいるんですが、そちらは公開ということも視野に入れてございます。ですので、もう少々お時間頂けると公開できるかなと。

そのキャンパス整備指針というのは、先ほど申し上げた、まず本部キャンパスを取っかかりに考えてございまして、本部というのは周辺の商店街と密接につながっていくような、キャンパスでありながら都市空間の一つというものでございますので、周辺に対する影響というものも考慮しながらのマスタープランとしてございます。

それから、2点目の設計会社、どうなんですかというところでいきますと、キャンパスごとにこの設計会社というような形は取ってございません。それぞれのプロジェクトごとにコンペを行いまして、最もふさわしい計画を御提案いただいた設計会社を選定しているというやり方をしております。

ではその際に、どんどん違うものができてしまうんじゃないかというところは、先ほども申し上げたキャンパス整備指針というものがもともと大学にございますので、その整備指針に沿った形での設計提案というものを頂き、それから実際の設計会社との設計も、大学と設計会社でどのようにしていくかということを綿密に打合せをしながらしてございますので、何かおかしな建物が突然1棟だけできてしまうというようなことはないように努めてございます。

以上でございます。

○有馬委員 ありがとうございます。

○野澤（康）副会長 よろしいでしょうか。

ほかにいかがでしょうか。

坂井委員 どうぞ。

○坂井委員 ありがとうございます。

3点ですけれども、最初に、さっきのトイレ問題は私も申し上げたいと思っています。

1階は防犯的に難しいとしても、2階、3階のところを、もう少し窓を造るとか、少し開放的なファサードにしていただければいいんじゃないかと思いました。

2点目は、5ページを見ていただくと、今回、この52・53・54の建物のすぐ横の歩道は、その工事に伴ってその歩道の緑化の部分も設計されているわけですが、併せて55号館と54

号館の間に車の行き来を計画されているようで、私あまりこの辺詳しくないんですけども、既存の図面を見ると、今まではここは車は入っていなかったかのように見えます。ごめんなさい、私が間違っていたら訂正してください。

なので、いわゆる明治通りから、それこそお散歩される方も多いと思うんですけども、やってきても、ここで1度途切れるという感じな計画に見受けられます。

ですので、歩道の景観にも非常に気を遣っていただいて、すてきなランドスケープデザインしていただいているんですけども、そもそも動線的に1度切れてしまうんじゃないかという危惧がありますので、このあたり、機能的にどうしてもここに造らざるを得ないということだと思うんですけども、何かしらの工夫をしていただけるとありがたいかなと思いました。

私は、景観は見え方だけではなく使い勝手ということもあると思いますので、お話しさせていただきます。

3点目、最後ですけども、今のランドスケープのことで13ページの下の計画断面図というのは、いわゆる残す52号館の断面図だと思うんです。新しい部分はここにドライエリアが入るということで、新たに植える植樹と建築物の間にドライエリアができて、どんと地下まで抜けるような断面図になるんだと思います。

今回、落葉樹も随分と入れていただいていて、落葉樹にすると季節の潤いですとか、軽い感じになる、色が明るくなるということでもとてもいいんですけども、一方で、落ち葉という問題がありまして、落ち葉の維持管理というようなものを、敷地内なので大学のほうでやりますということだと思いますけれども、改めてこの植樹の維持管理についてお伺いしたいと思います。

以上です。

○野澤（康）副会長 ありがとうございます。

では、お願いいたします。

○日建設計（團野） 1つ目と2つ目について、日建設計團野よりお答えさせていただきます。

トイレ問題というふうにおっしゃっていただいた部分については、先ほどお話しさせていただいたとおり、なるべくというところで考えさせていただきたいと思います。

2つ目の明治通り入ったところの切り開きでございますが、こちらは現在も門がございまして、ここから車を入れて搬出入を行っている部分になってございます。キャンパス計画的にはこの部分の切り開きというところは取り外すのは少し難しいというところで、なるべく連続感を感じられるという流れでやっていくという前提の中、もともとあるところをそのまま使っ

ているということを御理解いただければと思います。

3つ目については、小林のほうから御説明いたします。

○日建設計（小林） 今回御指摘のとおり、落葉樹も多く入れる計画になっております。落ち葉の管理というのは必ずついて回る問題ですけれども、低木・地被が植わっている部分に関しては、そのまま低木・地被の葉っぱの間から地面に堆積していった分解されていくということを想定していますが、おっしゃられるようにドライエリアにも落葉樹の葉っぱが落ちていきます。こちらは、もう大学に御理解いただいて、管理いただくしかないかなというふうに考えております。

○早稲田大学（北野） 大学から少し補足させていただきますと、現状のキャンパス、敷地境界の植栽というのも、先ほど説明のあったイチョウ、それから明治通り側は大きなケヤキというものが植わっていて代表的な落葉樹でございまして、やはり落ち葉というものは近隣の皆様、あるいは歩行されている皆様にも御迷惑かけている部分あるかと思います。そこは大学としても、キャンパス内だけではなくて、キャンパス外の落ち葉の管理、清掃管理というのも日々やっております。

したがって、今回の計画で敷地周辺、南側のところの植栽、低層部分が今よりも増してくる部分ではございますけれども、引き続き植栽、落ち葉の管理を含めた植栽管理というものには大学として努めていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○坂井委員 ありがとうございます。

○野澤（康）副会長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

では、**大橋委員**どうぞ。

○大橋委員 今、木やみどりについてお話があったんで、お聞きしたいなと思ったところが14ページのワイヤー式緑化の件なんですけれども、このカズラ、私もよく塀に絡ますんですけども、これワイヤーでずっと絡まってくると、最初は確かにすてきです。でも、何年かたつと、もう本当に壁みたいになってしまうんです。この左側の写真はとても素敵に、皆さん歩いていて光が入っているんですけども、これが何年かしたら、光の取り方がすごく難しくなってくるんじゃないかなと思うので、一番下から上の天井というんですか、そこまで全部ワイヤーが張られているんですけども、少し天井からワイヤーの部分にガラスの光を取る窓というのは変ですけども、そういうところを入れると、もしカズラがすごくいっぱいになっても上のほうから光が入ってこられるんじゃないか。そうじゃないと、何年か経つとこのカズラって

結構塀に、壁みたいになってしまいます。だから、光をどういうふうに取っていかれるのかなというところがちょっと気になりました。

○野澤（康）副会長 ありがとうございます。いかがでしょうか。

○日建設計（小林） 御質問ありがとうございます。

おっしゃられるとおり、ツル植物をコントロールするというのはなかなか難しいところも実際ございます。ですが、今回ワイヤーを均一に張るのではなく、密度が濃いところ、薄いところをつくりまして、壁になってもよいところは壁にする、光を通してほしいところはワイヤーのピッチを粗くするというような配慮をしまして、みどりに近付いたり、遠くの景色が見られたりというように、中から見る景観の変化を付けたいという意図もございます。

また、大学にもこの計画を御提案するときに、管理作業は必要になりますということを御説明申し上げて、管理を進めていただくというようなことになっております。ありがとうございます。

○野澤（康）副会長 大橋委員、よろしいでしょうか。

○大橋委員 ありがとうございます。

○野澤（康）副会長 ほかにいかがでしょうか。

○安田委員 安田です。みどりの話の続きで、申し訳ないです。

コズミック通りのことなんですけど、13ページです。コズミック通りというのは公の道で、区道だと認識してよろしいと思います。となると、東京都のいわゆる福祉のまちづくり条例に準じて計画をされているとは思うんです。

それで、先ほどの御案内で、有効幅員が短いところで1.6メートルは今後取れるであろうということなんですけれども、それでもこのコンクリート製の車止めは残っていくと思うんです。が、条例から言うと車椅子が普通の歩行者と擦れ違うときの最低の幅員が1.4メートルなんです。ということは、追い越したり擦れ違うときにどこか広いところで右側に寄ったりするとは思うんです。

私が気になるのは、13ページの右下で灌木を植えているいわゆる「マス」と言うんですか、コンクリート製のマスがありますよね。それも縦断方向ではなくて、道路に対して直角のものが結構目に付くんです。白杖者、つえをついている方は結構大きく白杖を回しながら安全を確保しているんです。

私、これは危険な場合があるんじゃないかなと思うんです。多分マスを造るのであれば、特に車椅子とか白杖利用者に対しては縦断のほうが安全だと思うんですが、そのあたりというの

はいかがでしょうか。現状では、1.4メートル以上あるのでいいんですけども、雨の日、私も車椅子を使ったことがありますけれども、まるで基準とは別なことが起きるんです。滑ったり、ジグザグ状に歩いたり。そういうことを考慮したほうがいいんじゃないかなとちょっと思いました。

あと、このマスは一体何の役割をしているのかも知りたいんです。

○野澤（康）副会長 いかがでしょうか。

○日建設計（小林） 御質問ありがとうございます。現状、歩道の有効幅員が1.2メートルと今おっしゃられた1.4メートルに対して満たされていないという状況がまず1つ。それに対して、今回セットバックすることで最低でも1.6メートル、広いところだと2.4メートルに官民一体となって歩行空間を拡充していくということが実現できるということになっております。

先ほど御指摘がありました進行方向に対して直角な壁がちょっと気になる、邪魔なんじゃないかというところですけども、こちらに関しては敷地内の設備関係、マンホールなんかがありまして、継続してキャンパスを利用するために、ここはどうしても外せないというところで、そういう設備を景観に配慮し、みどりで囲みながら、かつ歩行にも安全になるようにということで、1つの囲みが土がこぼれないような仕組みの土留めとしてコンクリートが出てきています。

今回、危険なところは確実に、コンクリートもピン角ではなくて面を取るとかという工夫はしていきますし、夜、今回このコズミック通り、かなり暗いように見受けられるんですけども、大学のほうで照明設備を追加していくことで安全な歩行空間を夜も確保するという計画になっております。

よろしいでしょうか。

○安田委員 はい。できるだけ大きく面を取っていただけると、健常者もつまずかずに済むと思いますので、よろしく願います。

○日建設計（小林） はい。ちょっと細かいところは、今後も検討させていただきます。

○野澤（康）副会長 では、**中島委員**願います。

○中島委員 中島です。御説明ありがとうございました。

実は1点目、今の**安田委員**のお話と一緒になんですけれども、一部、まさに縦の部分が1メートルオフセットラインにはみ出ている部分があるのが非常に気になりまして、それ以外の部分はいいと思うんですけども、はみ出ている部分は、本当にこれが今の御説明で必要なものなのかどうかというところは、もう一度追加の御説明というか、確認したいところがございます。

ちょっとこれは危険じゃないかというのがあります。

あと2点目は、街角なんですけれども、明治通りとコズミック通りの交差点の角、ここも今回緑化の対象になっていて、やはりかなり目が付くところなので、恐らくここにソメイヨシノを植えられたりして、春、非常に華やかになりそうではあるんですが、緑地部分が非常に小さくて、みどりのボリュームとしても、本当にこれでソメイヨシノがしっかりと育つのかなとか、ちょっと心配なところもあって、この辺りというのは、これは当然大きさというのは決められているのかもしれませんが、もうちょっと何か充実した角のランドスケープというのは可能性はないのかどうかということです。今回コズミック通り側のほうがかなりフィーチャーされていますが、この角地はとても大事でかなり早稲田大学の表情を決めてくるところでもありますので、そこについてのお考え、あるいは課題というか、実際にはこうやりたかったということあるかもしれませんが、その話を伺いたい。

あともう一つは、先ほどのはみ出ている話とはちょっと逆になるかもしれませんが、今回の通りは非常に特殊な通りで、区道の真ん中にまず樹木があって、その裏に街路樹があって、さらに早稲田大学さんの提供されるみどりがあって、その三重の非常に豊かなみどりなんですけれども、その真ん中の2番目の街路樹というか、歩道側にある街路樹が一部欠けている部分があるかと思うんです。これはどういう経緯で欠けているのか、ちょっと分からないんですが、例えば今回、都さんと、あるいは区ですか、協議して街路樹を復活させたりとか、もうちょっと、1回失われた街路樹を再生させるようなことというのは何かできないか。ちょっと歩道の有効幅員を狭めてしまうところがあるのですが、その分、今回1メートル取られているということもあると思うので、先ほどの夜間の防犯とか、そういうのを踏まえた上ですけれども、敷地を越えて区と共同して今よりもみどりを豊かにしていくような、何かそういうところにスキームって展開できないかなということが、この段階でできるかどうか別なんですけど、見ていて思うことでございます。

先ほどの出入口の部分はもちろんないのは分かるんですけども、何かこの図面を見させていただきますとそれ以外にも結構欠けていますよね。ちょっとそのあたり気になりました。

いずれも、この案に対する修正をとということではないのかもしれませんが、少し知りたい、聞きたい点でございます。

○野澤（康）副会長 では、以上3点ということですが、いかがでしょうか。

○日建設計（小林） ありがとうございます。

まず1点目、危険を回避するための工夫は、これから施工段階に入りますけれども、その中

でもう一度吟味しながら進めていきたいと思います。出っ張りを最小限にする工夫だとかというのは何種類か方法があるかと思いますが、大学さんとも協議を進めたいと思います。

それから、御指摘の桜の植栽基盤がちょっと小さいんじゃないかというところではあります。どうしてもその裏に駐輪場を確保するということで機能的な側面がありまして、建物までの間が空間があるので、もったいないというような図面に見えますけれども、ここでぎりぎりというところもありますので、実際に畑で桜を選んだりするときに根鉢の大きさも考慮し、少し西側に桜をずらすとかというような工夫をしながら、健全性を確保して、向こう100年続くような、このコズミック通りの景觀に寄与するような一部になっていけばいいかなというふうに考えております。

続きまして、イチョウの街路樹のお話ですけれども、この3列の街路樹、ケヤキが一番真ん中で大きくて葉を広げておりまして、南側のイチョウはすごく大きく育っていますが、早稲田大学のほうはイチョウが衰退していつているように見えます。それは日照の影響なのかなと個人的には思っていますけれども、それを復旧していくということが行政側としてよろしいということであれば、ぜひしていただければいいかなと思うんですけれども、おっしゃるとおり、今まではかなり狭いところで、ボラードの内側で1,200ミリメートルですけれども、イチョウの内側だともっと狭いところもあったりして、かなり歩きにくいなというところがありますので、今回セットバック、大学のほうでしていただいたということを背景に、これなら植えてもよろしいという行政側の判断があれば、素敵な緑陰がまた復活するかなというふうに思います。

ただ、個人的にはこの道路幅の中でこの3列というのは結構きついなと思って、樹種が大きいものばかり集めてしまっているというのはちょっと気になってはいます。

以上です。

○野澤（康）副会長 中島さん、いかがでしょうか。

○中島委員 重々分かりました。

加えて、ちょっと気になったんですけれども、ベンチの配置があつてこれも座っていただきたいんですけれども、非常に日当たりが強いような場所でもベンチもありそうな気もしまして、そういうところもぜひ落葉樹で夏はしっかりとした適度な緑陰があるといいと思う。やはりここが本当に人が座りたくなるというか、実際座っている風景ができるといいなという、そういうことを考えての話ですので、いろいろな工夫の仕方があると思いますので、そこはランドスケープのプロの方にお任せしますが、ぜひここで豊かなパブリックライフがあるような通りになってくれたらなと思います。

私からは以上です。

○野澤（康）副会長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

阿部委員、どうぞ。

○阿部委員 阿部です。

今いろいろとランドスケープ関係の話が出ましたので、建物側の話を、二、三質問したいと思えます。

まず初めなんですけれども、2ページ目が平面図関係、そして7ページ目、8ページ目に立面図がございまして、特に7ページ目の上の段で、左側に既存の59号館があって、守衛室があって、52号館があって、53号館、54号館は建て替えという話で、既存の55号館は鈴木恂さんが設計担当したと思うんですけれども、この高さは大体35,6メートルかと思っています。既存の59号館は大体20メートルです。

それで、今回の計画に当たりまして、段状にして9階建てに上げて、特に最高40メートルにしているんですが、例えば9階をなくして8階で全部きれいにそろえて鈴木恂さんの三十五、六メートルに合わせるというような、そういう検討はあったのかどうかということを知りたいです。今ここまで進んでいますからあれなんですけれども、それが1つ気になったのと、守衛室と離隔が7メートルぐらいしか空いていないんです。そのところでいきなり40メートルのボリュームがどんと来るということが、果たして51号館に向かって歩くときにいいのかどうかというのはすごく、ここを歩く人間としてちょっと気になったところです。それはいかがでしょうか。

○日建設計（團野） 最初の8階にならないかというところの検討があったかということについてお答えさせていただきます。

冒頭説明させていただきましたとおり、東京都の日影許可を受けて、こちらの計画を進めさせていただいております。ちょうど日影許可の中で日影ラインを出していくと、こちら図面向かって右側、東側の部分というところは北側の公園に対しての影の関係から、ここにはボリュームを敷地全体の複合日影としてつukれないということになっていまして、このシルエットをその中から導き出しているという形でございます。

59号館との差というところでも、51号館を中心とした軸から、この52号館、53号館、54号館を半ば反転させたような形で、そのシルエットを見てくるということで、コズミックセンター側の景観を整えていこうということを計画しておるところでございまして、59号館とのギャッ

プというのは、この一連の計画の中で解消されてくるものというふうに考えております。

○阿部委員 個人的なことは置きまして、客観的な形で言うと、日影の規制によって、ただし書の許可を取得しているということがございましたので、それを検討していくと、8階で全部やっていくとNGだったという、そういう理解でよろしいですね。

○日建設計（團野） はい、そのとおりです。

○阿部委員 2ページ目の平面図で言うと、これは上が北でよろしいですか。

○日建設計（團野） はい。

○阿部委員 複合日影やって、結果的にこのボリュームがあったらNGだったということですね。

○日建設計（團野） 日影から逆算したとりかごを決めていって、そのとりかごの中で設計するということが東京都とのお約束になるんですけれども、そのとりかごの時点で、そこに8階を造ることは無理ということが出ているという形になっています。

○阿部委員 これキャンパス、一敷地ですよ。上が北だと、通常複合日影だと自分のキャンパス内に影が落ちると思うんですが、そういう取決めではないんですか。

○日建設計（團野） 戸山公園のほうにも影が伸びていく。

○阿部委員 戸山公園に落ちると。

○日建設計（團野） はい。複合日影で既存の許可を得ている日影のラインを出ないということが求められています。

○阿部委員 既存の。それに縛られているわけですね。

○日建設計（團野） 大前提でございます。

○阿部委員 そういうことか。分かりました。非常にそのところで引きずられると何とも言い難いんですが、非常にこの段状が気になったのと、守衛室に対して40メートルの建物がいきなり建ち上がるというのが、私個人的な感覚で言うと、すごく違和感があります。

それはそれとしていきますが、特にそうしますと、7ページ目の立面図で言うところの守衛室、そして既存の52号館の上にメガストラクチャーで組むもので言うと、色彩的なところだけからまず客観的に見ますと、今このキャンパスはシルバーメタリックで、劣化の問題があったので全部塗っていると思っているんです。既存52号館はたしかシルバー色、ここで言うところのメタリック塗装、Nの7.5に多分該当するだろうと思っていますが、これで言うと上層部がメタリック系でやって、ただしAという形で打放しでクリアーでやろうとしています。クリアーでやると、また何年かたったときに必ず補修の問題が出てくると思うんですけれども、あえて

ここだけ打放しにしようと思った意図は何でしょうか。それを教えてください。

○日建設計（團野） このコアだけはもともとコンクリート造で、ワイヤー式緑化の4階をまたいだ低層階、上層階、両方ともコンクリートでコアとして貫入しているものでございます。そこのコンクリート造でできているものについて、新たに仕上げとして何か付けるということはキャンパスの思想としても、今回の建物の思想としてもふさわしくないということで、まずコアはコンクリート造である限り、コンクリートをそのまま露出するというところで進んでおります。

そして、今回の建物、こちらは理工学部キャンパスの中で見られるメタリックの塗装ということは行わず、コンクリートの部分については既存55号館のようにクリアー、普通にコンクリート化粧打放しの風合いを見せていくということで、計画しているものになってございます。

○阿部委員 そうすると、既存の55号館の打放しに見合う形でやっていくという今のお話ですね。

○日建設計（團野） はい。

○阿部委員 そうすると、4階のワイヤー式緑化の上の部分が今Bになって、メタリックになっているんですが、ここをメタリックにした理由は何でしょうか。

○日建設計（團野） 両側コアはコンクリート造ですが、こちらのコアの間は、梁・柱ともS造になっておりまして、SとRCの混構造の、ちょうどスチールのフレームが来る部分に関しては純Sになっております。純Sといいますか、その部分だけを取り上げると純Sになっておりまして、そこにはスチールパネルで、研究室から出てくる将来的なダクトにも対応できる構造になっておりまして、その外壁についてメタリック塗装で、フレームについてもメタリック塗料塗りで作っているというところでございます。

○阿部委員 メタリック塗料、N7.5というのは、現状の既存52号館のシルバー色と同じというふうに理解してよろしいですか。

○日建設計（團野） そういった意図は特にございませんが、結果的には色は近付いてくるというふうに思っております。

○阿部委員 既存のシルバー色のNが7.5か、7.0か、ちょっと分からないんですけども、それを確認して、まずそれと合わせる形がよろしいかと、今話を聞いて思いました。シルバー色のN値を再度確認して、ぜひそれと限りなく近付ける御努力を願えればと思います。それが1点。ありがとうございます。

次なんですけれども、14ページ目は4階部分の平面図でしょうか。カフェテリアとかラーニ

ングcommonsがあつたりして、ここは非常に華やいだ雰囲気があると思っております。これで見ますと、南側が今言ったとおりワイヤー式の緑化、北側、中庭に面する側もワイヤー式の緑化があるというふうに理解します。それに対して、既存の52号館の上のところ、ラーニングcommonsの中庭に面するところが14ページ目の平面図ではワイヤー式緑化をやる図面となっていて、8ページ目の立面図では逆にガラス張りにしておるんですけども、これはどちらが正しいと理解したらいいのでしょうか。

○日建設計（團野） こちらは8ページのほうが正でございまして、14ページのラーニングcommonsの部分に緑がマークされていますのは、こちらは誤記でございます。

○阿部委員 14ページ目が誤記で、8ページ目は正と、そういうことですね。

○日建設計（團野） はい。

○阿部委員 ということは、ラーニングcommonsのところは、ガラス越しに中庭が見られるという理解でよろしいですか。

○日建設計（團野） はい、そのとおりでございます。

○阿部委員 分かりました。では、ぜひそういう形で。

というと、左側の53・54号館のワイヤー式緑化をする。これはカフェテリアなんですけれども、これはやると。先ほど、こういうものは結構茂っていきますので、特に北側なんで、茂り方は南と違うかと思うんですけども、どんどん樹木が成長していくと塞ぐ可能性があつたりするような感覚が若干見えたりするんですが、カフェテリア越しにガラスにして中庭を見るところ、そういうお考えはなかったですか。

○日建設計（團野） 環境として、まず緑量がある中で御飯を食べるとか、そういった環境をつくるということがまずスタートです。それをガラス越しに、緑越しに中庭を見る、もしくはそのさらに遠くを見ていくというような環境をつくれたらなというところでございます。

○阿部委員 分かりました。ということは、カフェテリアの前にはワイヤー式緑化があるという、そういうことですか。

○日建設計（團野） はい、そのとおりでございます。

○阿部委員 先ほどワイヤー式のピッチで、700、400、200ピッチがあるんですが、それによってある程度グラデーションを付けて見せたいという思いが感じられまして、そういう意味ではカフェテリアから中庭に移るときには極力、外から眺められるような間隔のピッチを多用したほうがよろしいんじゃないかと思いました。これ今700ピッチが割と多めでしょうか。ありがとうございます。

あともう一つ、これも中庭に絡む話なんですけど、12ページ目と15ページ目、12ページ目を拡大したのが15ページ目なんですけれども、ここの水景施設は既存の施設でしたか。

○日建設計（小林） そうです。

○阿部委員 ですね。それを尊重しながら、周りのケヤキとかその辺は、これは新たに植え替えるということでもよろしいんですか。これは現状の樹木を尊重する。

○日建設計（小林） ちょっと分かりにくくて申し訳ありません。水景施設が真ん中にありまして、その右側に通路がございます。南北に走る通路がございます、その右側のケヤキが3本ありますけれども、そこは植え替えをします。現状も今ケヤキが植わっているところですが、現状と同規模の樹木は植えられないんですけれども、将来大きくなれるようにということで今回植える予定になっております。

○阿部委員 そうすると、ケヤキ3本が植え替えしたら、他に設ける桜は、たしかありましたよね。

○日建設計（小林） 桜は、これは大事にしていきたいと。

○阿部委員 そうですね。これは尊重しているということですか。ケヤキは改めてやるということになるんですね。分かりました。

特に中庭は一番学生さんたちが日々ここでくつろぐところなので、ぜひこれは中庭の景観といたしましょうか、そこに学生さんたちがくつろげるような景観をつくっていただければありがたいと思いました。

以上です。ありがとうございます。

○野澤（康） 副会長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

有馬委員、どうぞ。

○有馬委員 最後に1個簡単に、この4階のところについて強風の影響というのは何か考慮とか、それなりの計算あると思うんですけれども、どのように考えられたかを教えていただければと思います。

最近、私もすぐ近くのマンション7階建ての7階に住んでいるんですけれども、すごい風で結構苦労することがあるんです。強風、台風、その類いの事象が起こったときの4階部分での対策だとか、もしくはその配慮があれば教えていただければと思います。

○日建設計（小林） 強風に対しての懸念と言えば、植栽がちぎれて飛んでいくとか、そういったことかなと思うんですけれども、そのようなことでよろしいですか。

○有馬委員 それも含めて、ベンチの土留めがあるんですけども、この辺、最終的な姿がちょっとよく見えないのもあるんですけども、強風の影響をすごい心配をしています。

○日建設計（團野） 14ページ左下のパースをご覧になっていただいていたの御意見を頂いているかと思えます。

こちらは計画段階の中でのパースでございまして、これからも計画進捗していく中で、緑化の近くに人がいられる場所というところはつくってくるかもしれませんが、今現時点で進めている中では、こういった緑化のフェンスの近くに椅子を配置するというようなことはまず計画しておりません。

そして、ただ一方で風が吹き込んできてツル植物がというようなことは考えられますので、そのあたりメンテナンス含めて検討させていただければと思っております。

一方、通常時のビル風というところでいくと、何か高層といってもそこまで超高層でもないので、ビル風のシミュレーションであったりといったところはかけてはおりませんが、この4階部分は大きく床が跳ね出しておりますので、高層部から風が吹き下ろしてくるといったようなところで1回そこで止めるというような形になり、一般論上、建物の形状的に4階に風が強く引き込まれてくるということになるのは一応防げる状況にはなっているかなというふうに思っているところでございます。

○有馬委員 ありがとうございます。

○野澤（康）副会長 よろしいでしょうか。

ほかにいかがでしょうか。

浅見委員どうぞ。

○浅見委員 13ページの図を見て感じたことを申し上げます。

現状の歩道のところを時々通るんですけども、狭いですし、私はよく自転車を利用するんですが、自転車で走っていても危ないですし、この塀がすごい閉塞感があって、暗い感じがしていました。それが下のパースのように変更になるのは、すごくいいなというふうに思いました。

ただ、ベンチがどんな素材のベンチが置かれるのかなというのが1つ気になるところです。

あとは、落ち葉は本当に季節によってたまらなく落ちます。私の近くの公園でも週に何回というふうに清掃の方が入って、常にお掃除してくれていても、かなり落ちます。だから、その辺は大学側がおやりになるのか分かりませんが、落ち葉はきちんと清掃していただきたいなというふうに思います。

以上です。

○野澤（康）副会長 ありがとうございます。ベンチのことが御質問としてあったと思いますが、いかがでしょうか。

○日建設計（小林） ありがとうございます。ベンチは今の計画では木または人工木、どちらかで進めたいと思っております。

落ち葉については、恐らく中央分離帯のケヤキがたくさん落ち葉を落としますので、そのあたりも含めてということになるかと思えます。

○野澤（康）副会長 ありがとうございます。

ほかの委員の方からいかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

様々御意見、御質問を頂きまして、ありがとうございます。またこれを参考に実施設計に向けて進めていただければと思います。

では、報告1については以上で終わりにしたいと思います。

今日はこれのみでございます。

2. その他

○野澤（康）副会長 最後に、事務局から連絡事項をお願いいたします。

○事務局（景観・まちづくり課主査） 本日の議事録につきましては、個人情報に当たる部分を除き、ホームページで公開いたします。

次回の審議会日程については未定となっております。開催する場合は、日程が近くなりましたら改めて開催通知を送付させていただきますので、よろしくお願いいたします。

なお、景観事前協議の届出及び行為の届出について、勧告や変更命令を検討する事例が発生した場合には、急遽、審議会または小委員会を開催する場合がございますので、あらかじめ御了承ください。

事務連絡は以上でございます。

○野澤（康）副会長 ありがとうございます。

それでは、本日の景観まちづくり審議会はこれにて閉会としたいと思います。どうもありがとうございました。

午前11時23分閉会